

団体名	美しい山形・最上川フォーラム	
代表者	会長 柴田 洋雄	
所在地	山形県山形市緑町 1-9-30 緑町会館	
事業内容	<p>「身近な川や水辺の健康診断」</p> <p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を平成14年度から毎年実施。水のごりや富栄養化（窒素・リン）の問題への理解と関心を高める。 ・簡単な水質調査キットを使って調べる活動を通じて、子どもから大人まで河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。 ・調査結果はホームページで公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。 <p>2. 内容</p> <p>(1) 参加グループ数：80グループ、調査地点240地点を想定</p> <p>(2) 調査の実施期間：6月3日（土）～6月11日（日） ※世界環境デー（6月5日）にあわせ、これまで実施してきたとおり、原則として上記期間を設けるが、学校で実施する場合や諸事情を鑑み、実施期間を10月20日（金）までとし、安全、安心に無理なく実施できるよう配慮する。参加者は、この期間内で都合の良い目時に調査活動を行う。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>①パケットテスト6項目（パケットテストや比色カード、調査マニュアル等は当フォーラムが提供。） （pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン）</p> <p>②川の概要（水温、川幅、水深等）</p> <p>③1メートル透視度計による水の透視度の測定（貸し出しを行う）</p> <p>④水辺環境の目視調査（自然植生、泡立ち、散乱ごみ等）</p> <p>⑤水生生物調査（主催：山形県環境科学研究センター） ※調査を希望する団体のみ当フォーラムを通して申込み可能とする。</p> <p>⑥同一地点において、公定法調査に協力いただける参加申込み機関に対して、大腸菌数調査も合わせて依頼する。</p> <p>(4) 調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施グループより6月16日（※6月12日以降に調査をした場合の最終締め切りは10月27日）まで報告書を提出してもらい、データを集計する。 ・調査結果を総合的に分かりやすく表すために、調査地点ごとに各調査項目を得点化し、清流指標「水辺診断書」（五角形によるレーダーチャート）を作成し評価する。 ・ホームページにて報告データを公表すると共に、年度末に河川地図上、流域ごとに水辺診断書の結果を掲載する。 	<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パケットテストによる調査にあわせて、パケットテストの精度の参考とするため、一般財団法人理化学分析センター、株式会社理研分析センター、一般社団法人山形県水質保全協ほか環境分析関係事業所の協力を得て、同一地点において公定法調査も実施する。 ・上記環境分析関係事業所等からは、初めて参加するグループや小・中学校、高校等のグループの要望に応じて、現地調査サポートの協力をうけ、専門的な分野から水環境に対する啓蒙活動も行う。 ・小・中学校の実施グループには、総合学習の時間などに水辺の環境を考える参考として活用いただけるよう、報告を受けてから速やかに「水辺診断書」を作成し提供する。
事業実施期間	2023.4 ～ 2024.3	
事業実施場所	山形県内全域	
事業総額	588,000円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	和光自然環境を守る会	
代 表 者	会長 峯岸 正雄	
所 在 地	埼玉県和光市新倉 1-29-45	
事 業 内 容	<p>「身近な川の水質調査等」</p> <p>1. 内容</p> <p>① 定例美化活動 毎月第1土曜日午前中に川清掃を、また毎月第2木曜日午前中に川辺の遊歩道沿いに設けられた花壇の手入れを行っています。川清掃は全長3.4kmの越戸川の下流部約1.5kmの区間をほぼ三等分してローテーション方式で行っています。美化活動は現在埼玉県の川の国応援団制度に基づき運営されており、ゴミ袋・軍手等の作業用消耗品は県が無償で提供し、収集したゴミは和光市が無料で迅速に処分しています。収集ゴミにも変化が見られ家電製品、工業部材等の粗大ゴミが大幅に減少し、現在ゴミの相当部分は各種の廃プラスチック類であり、県や市と連携して、5年前から海洋プラスチックゴミ削減キャンペーンにも参加しています。下水管から河川への流入の状況確認も重要なチェック項目です。一方花壇の手入れは越戸川と谷中川の合流点付近を中心に実施しており、樹木の剪定と雑草取りが主な作業です。年間の総実施回数は両方併せて25回程度です。一般市民の参加は何時でも歓迎です。</p> <p>② 夏休みジャブジャブ大会 水辺再生工事を機に16年前より開始しました。夏休みの思い出作りに子供向けの事業として毎年8月に開催して来ましたが、昨年度より親子共に学び楽しめる場に変更しました。プログラムは教材用の小冊子を使用して青空教室と魚とり、ボート遊び、水質調べです。参加者は毎回概ね100名程度で魚とりに熱中します。越戸川では手網でアユを捕まえる子供は珍しくありません。2015年8月の当大会の様子がNHK総合テレビのニュース番組で和光の子供は幸せと全国に紹介されました。なお、今年度は8月22日開催予定です。</p> <p>③ 越戸川まつり 当初小さなイベントとして始まりましたが、今日では30を超えるボランティア団体や行政機関の協力を戴き賑やかなイベントとなりました。ここ3年間はコロナ禍に鑑み出店等の一部制限を実施しましたが今秋10月7日の川まつりでは4年ぶりにフルスケールでの開催を目指しています。特に防災面での市民啓発に資するよう、地震体験車や消防車の出動、市のハザードマップの展示・解説、市の備蓄食材の更新に伴う配布等を企図しています。</p> <p>④ 国土交通省所管の身近な水辺の水質調査には当該調査開始以降19年皆勤、また環境省所管水生生物調査にも14年前から参加しています。採取された水サンプルの分析結果や水生生物の変化から、例えばカワナナの増加等水質改善がうかがえます。</p> <p>⑤ 10年前より近隣の和光市立小学校2校5年生の総合学習を支援しています。内容は魚等の事前学習、魚とり体験および捕った魚の学習、川をテーマとした絵画の製作、教室での川の勉強(Q&A)からなります。生徒の関心や興味は年々広がり、川から地域全体の自然に及びつつあります。今年から新たに小学校4年生の川での総合学習が加わり、越戸川はますます学びの場としてその重要性を増します。</p> <p>⑥和光市立小中学校生や埼玉県立和光南特別支援学校初任教諭の夏休みボランティア体験活動を受け入れています。シニアが多数の当会会員にとり夏の盛りに汗を拭きながらの孫の年頃の小中学生や若い先生方との協働作業は楽しみでもあります。</p>	<p>⑦和光市環境審議会、和光市環境づくり市民会議等で代々中心的な役割を担っています。</p> <p>⑧多くの市民活動団体と行き来し、ネットワークを構築、また必要に応じ行政、一般市民、建設業者および専門家間の橋渡しを行っています。一例として2年前から東洋大学理工学部青木研究室のアユ等の遡上を補助する簡易魚道の設置研究を支援し成果を得ました。</p> <p>2. 課題と展望</p> <p>当会の活動が始まった頃の越戸川は都市化の進展に伴いへドロが堆積し、悪臭漂う当時の典型的な小河川でしたが、下水道網の整備拡張や合併浄化槽の普及、当会の地道な努力、更には2008年から2012年にかけて実施された埼玉県の水辺再生工事(水辺再生100プラン)の効果が相俟って、今や清流が復活し、堤防を行き交う市民も増え、子供達の歓声が川面にこだましています。</p> <p>昨秋埼玉県より“NEXT 川の再生”事業で越戸川が唯一対象河川に選定された旨通知を受け、当会もこれに参画し、和光市役所及び多数の市民の協力を得て“越戸川アップグレード計画”を取り纏めました。生物多様性の進展と子供達の良き遊びの場の提供を狙いとして今年度より逐次追加工事が実施されるとのことです。</p> <p>当会員(現在35名)はシニアの男性が大多数ですが、小学5年生で入会した会員が今春社会人として巣立ちました。引き続き川活動を継続し、将来は我々シニアに代わって活動をリードしてくれることを願っています。</p> <p>団塊の世代が続々と定年を迎え、60代の働き盛りの方々の入会を期待していましたが、定年の延長や年金支給開始年齢の繰上げ等の影響で現状は芳しくありません。むしろ自然環境に関心を持たれている現役世代の方の入会が続いており、大いに励まされています。</p> <p>当会の活動費は年22万円程で、会員からの年会費(一人千円)と各種の助成金および寄付金で賄っています。社会貢献活動に熱心な企業・団体の資金面のご支援に感謝しております。</p> <p>幼稚園や小学校時に越戸川に親しみ、更に中学校時にボランティア活動等を通じて川への理解を深めた多くの子供達が年々巣立っています。人は幼少時に豊かな自然体験を有して育つと、成人して後社会への適応能力が高いことが知られています。和光市の豊かな自然と存分に接して育った子供達が将来一人前の社会人として次々に世界に羽ばたく日を心から楽しみにしています。</p> <p>コロナ禍の影響で3年余り川での活動も制限を余儀無くされましたが、本年度は従前の活動が可能な模様です。和光市のスローガンは“快適環境都市”、当会は町づくりの一翼を担い、多くの市民と手を携えて“生き物と人と風景が溶け合う越戸川”を引き続き実践して参ります。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
事業実施期間	2023.4 ~ 2024.3	
事業実施場所	埼玉県和光市の新河岸川水系越戸川	
事業総額	224,380円	
助成金額	100,000円	

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「2023年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	上林川を美しくする会	全国水源の里連絡協議会
代 表 者	会長 岩見 修一	会長・京都府綾部市長 山崎 善也
所 在 地	京都府綾部市野田町須知山 110-10	京都府綾部市若竹町 8 番地の 1 綾部市役所
事 業 内 容	<p>「上林川を調べて・知って、守り育てる活動事業」</p> <p>1. 目的 「上林川を美しくする会」は、市民・団体・行政の協働により環境保全に資する様々な活動を自発的かつ継続的に実施しており、京都府内有数の清流である上林川を次代に引き継ぐことを目的としている。</p> <p>2. 内容 (1) 川の中に入って生き物を調べよう(水生生物調査) 小中学生の児童生徒が川の中に入り、川に生息する魚や生き物を観察したり、採取したりする体験を通して、ふるさとの川に親しみ、身近に感じてもらうことで川を大切にすることを育てる。また、水生生物について学んでもらう場とする。 実施：会員・地元小中学校児童生徒 場所：上林川流域 時期：令和5年6月～9月を予定</p> <p>(2) 上林川のヨシを刈り、景観を美しくしよう(ヨシ刈り作業) 上林川の景観保全や水域浄化を図ることを目的とする。ヨシ刈り作業を行うことで川を大切にすることを活動の輪を広げる。ヨシ刈り作業は上林川を美しくする会会員だけでなく、ボランティアを広く募集して実施する。 実施：会員・市民 場所：上林川流域 時期：令和5年6月～9月を予定</p> <p>(3) 上林川流域の環境美化を図ろう(上林川環境美化大作戦) 上林川の環境美化を図るため、会員だけでなく、上林川流域住民と一緒に一斉美化作業を実施する。 実施：会員・流域住民 場所：上林川流域 時期：令和5年11月を予定</p> <p>(4) 上林川の現状を把握しよう(水質調査) 上林川の清流を守るため、継続して水質調査を行うことで現状の把握を行う。会員が上林川流域12箇所にて採水を行い、透明度・pH・DOの測定を行う。採水の詳細な検査(BOD・SS等)は専門業者に依頼し分析を行う。 実施：会員 場所：上林川流域12箇所 時期：通年</p> <p>(5) 上林川に関する情報を発信しよう(会報発行) 会の活動を市民に知ってもらうため、会報を作成し配布を行う。市民に上林川の現状を知ってもらうとともに、川の水をきれいにするために普段から出来ることを実践してもらう契機とする。 実施：会員 場所：市内全域に配布 時期：年2回(9月・3月)を予定</p>	<p>情報誌「水の源」発行事業</p> <p>1. 目的 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念のもと、水源の里地域における振興と水環境等の保全に取り組む全国の自治体が連携し、水源の里振興の理念を国民運動として広げていく。</p> <p>2. 活動内容 森林や水環境保全に大きな役割を果たす水源の里地域の情報発信、交流、連携を図るため、情報誌を発行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名 称 「水の源」(みずのみなもと) ・目 的 ①水源の里の理念を全国に展開していく。 ②集落の情報を全国に発信していく。 ③下流(都市部)の皆さんの理解と協力を求めるとともに、交流を推進する。 ・発 刊 年1回(SNS等を活用した方法。)
事業実施期間	2023.5 ～ 2024.3.31	2023.4 ～ 2024.3
事業実施場所	綾部市内	全国
事業総額	853,700円	225,000円
助成金額	200,000円	112,500円

団 体 名	学校法人 大阪学園 大阪高等学校 科学探究部	
代 表 者	科学探求部顧問 谷脇 鉄平	
所 在 地	大阪府大阪市東淀川区相川2-18-51	
事 業 内 容	<p>1. 背景</p> <p>環境問題は、21世紀に解決すべき地球規模の危機的課題とされており、次世代の人材育成においても環境問題に関する教育は、重要な項目の1つである。事実、SDGsが国連サミットで採択され、2030年までの国際目標とされている。しかしながら、昨今の子どもたちを取り巻く受験環境では、進学のための勉強に偏りがちとなり、自然と触れ合う体験が少ないことや、理科及び環境教育で重要な実験授業やフィールドワーク活動が困難であることも事実として存在している。</p> <p>これまで本校科学探究部が取り組んできた「環境DNA分析を利用した生物相調査」の活動実績は、2017年から始めた京都産業大学との共同研究(高大接続)は第1回及び第3回環境DNA学会(高校生部門:最優秀賞)等、2020年から始めた富山大学学術研究部理学系の山崎裕治准教授との共同研究(高大接続)は第4回環境DNA学会、令和4年度及び令和5年度日本水産学会(高校生部門:最優秀賞)等で発表し、クラブ活動を通じた教育・研究実践が「高校生らしい活動」として評価いただいた。</p> <p>2. 計画内容</p> <p>昨年度(2023年3月29日～31日)、貴連合会の助成金を活用しながら実施した研究合宿に、石川県立七尾高等学校の中村晃規教諭が、SSH校ではない本校科学探究部の取り組みに興味関心を持たれ見学された。</p> <p>これをきっかけに、石川県立七尾高等学校の中村教諭から今年度に入り環境DNAに関する高校間の合同交流会の提案をいただいた。</p> <p>本計画では、SSH校である石川県立七尾高等学校、富山県富山中部高等学校及び福井県立藤島高等学校と本校の合同交流会を通じて、SSHの垣根だけでなく県境を越えた同世代の高校生が熱く環境DNAの研究に没頭する場(研究会)を設けることで、本校科学探究部の生徒たちの自尊心の育成とこれまでの研究内容を同世代に向けて発表し、これまでとは違う「学びの実体験」から本校科学探究部の生徒たちのより一層の育成を図る事を目的とする。</p> <p>また、これまで富山県氷見市を舞台に継続してきた富山大学山崎准教授との共同研究(高大接続活動)がこれまで報告事例がない面白い可能性を秘めているため、研究会で学び得た経験値を糧に、継続研究がより躍進することも目的とする。</p>	<p>3. 計画スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年4月～6月 環境DNAに関する知識がまだ定着していない新入生部員が、8月の研究会への参加だけでなく主体的に発表できるように、3年生と2年生が育成を図る。 2023年7月～8月 高校間の研究会に向けて発表準備 2023年8月19日～21日 1日目:午前中に野々市市に出向き、午後からエクスカージョン 2日目:高校間の研究会 3日目:午前中に帰阪 2023年9月～2月 高校間の研究会で得た経験値を糧に、富山県氷見市での継続研究にかかる事前調査 2024年3月 富山大学理学部・氷見市連携研究室(ひみラボ)を拠点に研究合宿(2泊3日)を実施し、本来いないはずの魚種の謎を追う。 <p>4. 期待される効果</p> <p>2020年度の大学入試選抜改革により、小論文や面接だけでなく活動実績も、入試選抜(総合型・学校推薦型)の評価対象に含まれるようになった。</p> <p>事実、2020年に高校2年生だった科学探究部の生徒は山崎先生と出会い、環境DNAを通じて学び得た実績を活用して総合型選抜入試に臨み、富山大学理学部生物学科へ進学(2022年度1名、2023年度1名)した。</p> <p>これまで取り組んできた活動内容は、まさに文部科学省の「高大接続改革」や経済産業省の「未来の教室」に関連するだけでなく、新学習指導要領(2022年度実施)のねらいである探究活動の実践モデルの「新しい学び」を体現した例である。</p> <p>この新しい学びは、座学とは異なり、主体的な学びの実体験を通じて生徒たちがより明確な目標に向かうための意識付けや、やる気スイッチを入れるためのきっかけとなる。</p> <p>従って、これまでの活動を通じて確立された次の「柱」を大切にしながら、今後はアカデミックレディネスを目指した新しい高大接続の実践モデルにもチャレンジし、教育支援していきたい。</p> <p>① 生徒たちが立案した環境保全計画や活動実践を、理科教育の現場や市民向けのイベントで情報発信することで、多くの生徒や市民が身近な自然科学により興味関心を抱き、将来の進学目的や環境への意識等の芽生えにつなげたい。</p> <p>② ワクワク感を抱かせる「学びの実体験」を提供することで、学問としての理科の重要性を生徒や教員が再認識するきっかけにつなげたい。</p> <p>③ これらの実体験を客観的に評価いただくためにも、積極的に外部発表に取り組み、今後社会で求められる「生きる力・タフな人間力を育む」ことを狙いながら、生徒たちの成長育成につなげたい。</p>
事業実施期間	2023.8.1～2024.3.31	
事業実施場所	ひみラボ(富山大学理学部・氷見市連携研究室)	
事業総額	639,400円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	特定非営利活動法人 SPERA 森里海・時代を拓く
代 表 者	内山 里美
所 在 地	福岡県柳川市椿原町 45 番地
事 業 内 容	<p>「水中映像の展示上映」</p> <p>管理運営しているやながわ有明海水族館において、長田芳和・大阪教育大学名誉教授や松島修・兵庫県立人と自然の博物館地域研究員が柳川掘割やニツ川で過去に調査した資料や日本各地で撮りためてきた貴重な水中の生物の動画記録の上映及び解説のセミナーを実施する。</p> <p>柳川掘り割りやニツ川の現状について、川岸からの観察調査を行い、調査対象水域の現状を詳細に記録する為に潜水による生息調査や映像撮影も試みる。</p> <p>「淡水魚のボトルアクアリウム」</p> <p>柳川の掘割にすむ淡水魚を活用しボトルアクアリウムのワークショップと貝殻を利用した装飾品を作成。</p> <p>講師は今井洗貴(日本ビオトープ管理士)これまで水族館のボランティア活動に参加。</p>
事業実施期間	2023. 8. 13、14、10. 15 2024. 3. 10
事業実施場所	やながわ有明海水族館 ニツ河中流
事業総額	496,200円
助成金額	200,000円